

浅間高原野鳥の会事務局

上原 健 氏

小学校6年生まで福岡県で育ち、親の仕事の都合で神奈川県へ移り住んだあと、北海道の大学に進学しました。渡り鳥の

ようですね。獣医を志したものの挫折、化学会社に就職しました。給料も待遇も大満足でしたが、大企業の歯車になる覚悟ができておらずあえなく脱落。運と縁あって財団法人日本野鳥の会に転職したのです。転職初日から東京湾の埋め立て地に造成された東京港野鳥公園でレンジャーとして働くことになりました。ここでは日々、野鳥のこと、自然のことを先輩や同僚、来園者の方々に直接教えてもらい、さっき覚えたことをさも昔から知っていたかのように別の来園者に話していました。ときどき「そんなこと、よく知っていますねえ」と驚かれるのですが、この時期に恵まれた環境で集中していろんなことを見聞きし吸収したことが大きかったようです。この時にはもちろん、還暦も過ぎてから嬭恋村に移り住もうとは夢にも思っていませんでした。浅間高原には、図鑑を見てあこがれていた野鳥や虫、草花がその辺に普通にいたり、生えていたりするので日々感動しています。

浅間高原野鳥の会の会員は70名。皆さん、身の周りの自然に目を向け、より豊かな自然を守り育てようという意欲的な方ばかり。私の地域おこし協力隊の任期は残り数か月ですが、豊かな自然と素晴らしい方々に関わって充実したものになりそうです。

嬭恋郷土資料館

斎藤 忠相 氏

浅間山北麓エリアで生活する皆さんであれば、馴染みの深い動物である“カモシカ（ニホンカモシカ）”。シカと名前があることからニホンジカなどと同様にシカ科の動物と思われがちですが、実は、生物学上は鯨偶蹄目ウシ科ヤギ亜科に分類され、ウシの仲間と捉えられています。カモシカの体は長い体毛で覆われ、その色には茶褐色、白、黒など地域差があると言われており、雌雄共に10~15cm程度の角を有しています。

良質な毛皮や肉が取れることから、かつては狩猟対象とされましたが、個体数の著しい減少によって絶滅が懸念されたことや、学術的価値が認められたことにより、1934年に国の天然記念物に指定され、その後1955年に特別天然記念物に昇格指定されました。

指定当時は数千頭まで個体数が減少したようですが、指定による保護や拡大造林に伴う餌資源量の増加などにより、次第に個体群が回復し分布が拡大しており、民家の近くなどでも目撃されることが増えてきています。

1970年代頃には、カモシカによる農林業被害が訴えられるようになり、嬭恋村ではキャベツを中心に食害被害が報告され、2007年頃には群馬県全体で年間2億円以上の被害を出すこともあったようです。近年ではモニタリングや管理捕獲、防除対策の強化などにより、被害量はピーク時と比べ大きく減少しています。法律上では保護対象でありながら、食害等により人々の暮らしを脅かすこともあるカモシカのような例を見ると、人間と野生動物との共存の難しさを改めて考えさせられます。野生動物たちと上手に付き合っていくには、まず相手のことを良く知り、適切な対策を検討・実行していくことが大切です。



あさまびと

A S A M A B I T O

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

SDGs x ASAMA

2023 春号

Vol.24



特集：身近にいる野生動物



ジオパークからのお知らせ



学校関係者の方を対象に教育懇談会が行われました。実際に現地に行き、学校教育にジオパークの視点を活かすために、ガイドの説明を聞き、先生・ガイドが一体となって議論を重ねました。

Table with 2 columns: Date, Event Name. Includes '2023 浅間山北麓ジオパーク認定ガイド養成講座'.

ガイド養成講座が開始されました。今年も定員いっぱいにお申込みいただき、15名の方が新しいガイドを目指し、毎週土日に講座を受講され、とても良い雰囲気です。



浅間牧場周回遊歩道ジオツアーが今年もGWに行われる予定です。広大な牧場を歩いて日々のストレスを解消できます！詳細は決まり次第、HPやSNSで告知いたします。

発行：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会
〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：info@mtasama2568.xsrv.jp
Facebook：www.facebook.com/asamageopark
Twitter：https://twitter.com/home

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。
【料金】*ガイド1名あたりの値段
平地：半日6,000円 1日12,000円 (参加者11名以上はガイド2名)
軽登山：半日10,000円 1日15,000円 (参加者8名以上ガイド2名)
登山：1日25,000円 (参加者8名以上ガイド2名)

編集後記

あさまびとの編集に携わるようになってから1年が経ちました。これからもより良いあさまびとを作りたいと思います。

浅間山北麓には多くの野生動物が生息しています。環境破壊が深刻な状況になってきている昨今、野生動物と共存できているこの地域はとても貴重な場所だと言えます。私たちの生活に身近な野生動物を紹介します。



この地域には、文化財保護法により定められた国の天然記念物に指定された動物、年々数が減少し絶滅が危惧されている動物がいるよ！これらの動物は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき管理していかなければならないんだ。今回はそれらの代表的な動物を紹介します。

天然記念物

特に世界的、学術的に価値が高い特別天然記念物としてニホンカモシカがいます。ニホンカモシカは、鹿と思われていますが鹿ではなく牛の仲間です。それは角を見れば分かります。鹿の角は枝分かれして1年に一回生え変わりますが、カモシカの角は枝分かれせず生え変わりません。国の天然記念物としてはニホンヤマネがいます。世界に28種類いるヤマネの中で日本にしかない固有種です。世界の哺乳類の種類の四分の一以上をしめるネズミに似ていますが、ネズミとは別の種類です。



ヤマネ



カモシカ

絶滅危惧種

地球上では年間約4万種の生物が絶滅しています。群馬県でもニホンヤマネ、オコジョ、ハコネサンショウウオ、ニホンモモンガ等の絶滅が危惧されています。

【オコジョ】

オコジョは体長15～20cm程のイタチ科の小動物で山岳、高山地帯に生息し愛らしいしぐさから山の妖精とも言われています。夏場は背側が茶褐色、腹側は白色ですが冬場は全身真っ白になり尾っぽの先だけが黒色をしています。



オコジョ

【ハコネサンショウウオ】

ハコネサンショウウオは体長10～19cm程で唯一肺を持たないサンショウウオです。500～2500mの山地に生息し水温に敏感で10～20℃の中でしか活動出来ずそれ以外だと温度変化が少ない湧水の中で休眠します。尾が全長の半分以上あるのが特徴です。

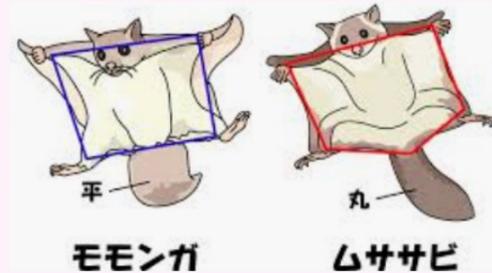


【ニホンモモンガ】

ニホンモモンガはリスの仲間です。多くの種に分かれていますが日本固有のモモンガで、本州、四国、九州に生息しています。両手首から両足のひざ、両足と尾の間、首から両手首の間に皮膜があり、無風状態でも10～15m風に乗れば40～50m滑空することができます。



ニホンモモンガ



モモンガ

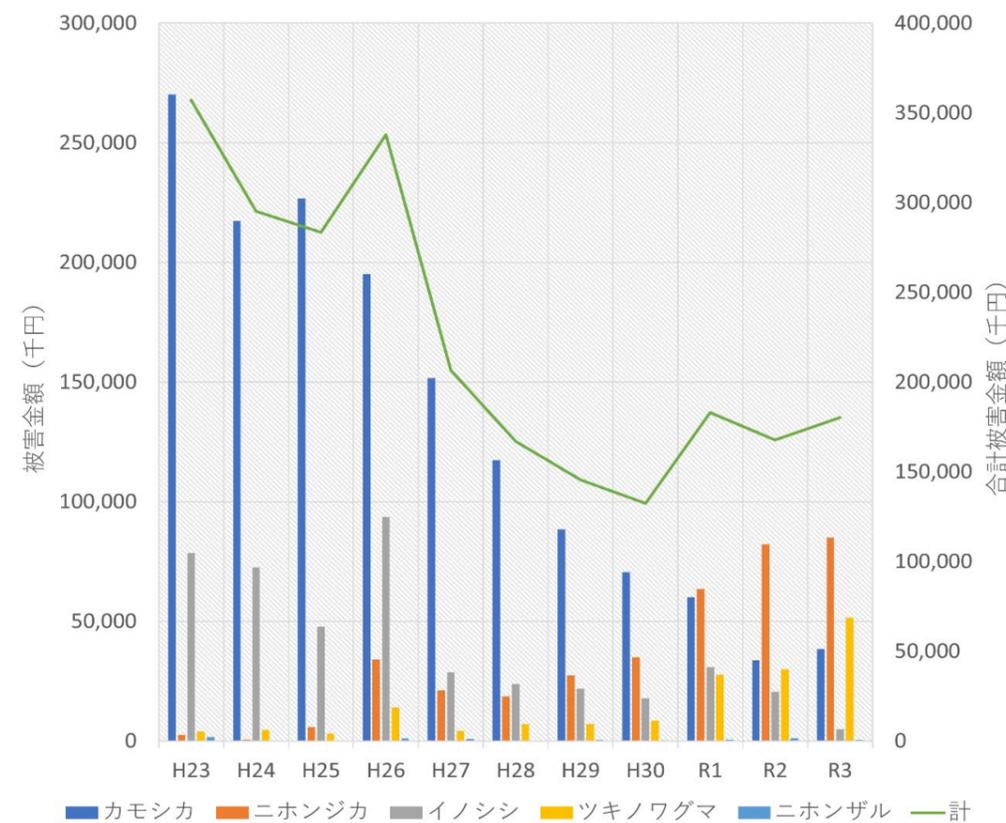
ムササビ

ニホンモモンガは、全長30cm程で「空飛ぶハンカチ」と言われしっぽが平べったく飛ぶ姿は長方形に見えます。それに比べてムササビは、全長80cm程で「空飛ぶ座布団」と言われ、しっぽが棒状で飛ぶ姿は五角形に見えます。

鳥獣被害

嬭恋村での農作物への被害の推移をみると、平成26年から徐々に減少していましたが、令和に入り増加傾向にあります。被害をもたらす動物は、ニホンジカが最も多く、ツキノワグマ、カモシカ、イノシシの順になっており、長野原町では、イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、カモシカの順になっています。また、浅間山麓では、ニホンジカの推定生息密度が1km当たり50頭以上の最も多い地域の一つになっています。これらの動物との共存を維持するためには、法に基づく適正な管理が必須です。

H23～被害金額推移



嬭恋村役場農林振興課 提供



ニホンシカ



イノシシ



ツキノワグマ



ニホンザル

ちよこつと豆知識



湯の丸レンゲツツジ群落

日本で有数の規模を誇る、60万株を超えるレンゲツツジ(日本固有種、群馬県花)の群落が自生しており、1956(昭和31)年に国の天然記念物に指定されました。面積は272haと広大で、6月中旬～7月上旬にかけて高原を真っ赤に染めて湯の丸山一帯を覆い尽くします。

レンゲツツジ群落は、家畜の放牧によりできました。湯の丸山麓のなだらかな地形を利用して、東御市の牧野組合により家畜(馬、牛、羊)が放牧され、有毒なレンゲツツジを家畜は食べないため今の大群落が形成されました。